

必修対策ハンドブック 改訂第3版 正誤表

	誤	正
p.67 ■ Apgar スコア 判定	4～6点：軽症仮死 7～10点：正常	4～7点：軽症仮死 8～10点：正常
p.78 ■加齢による変化 グラフ 呼吸 増加 1行目	残器量 (RV)	残気量 (RV)
p.117 ■ばち指 ◆原因 1行目	間質性肺腫など	間質性肺炎など
p.137 ■認知症 ◆原因 1、2行目	①脳血管性認知症：最多 ② Alzheimer 病	① Alzheimer 病：最多 ②脳血管性認知症
p.174 ■耳鏡検査 例 1行目	急性中耳炎 ⇒発赤・腫膜	急性中耳炎 ⇒発赤・腫脹
p.179 ■ラ音 ◆断続性ラ音 7行目	～呼吸で破裂して発声	～呼吸で破裂して発生
p.182 ■IV音〈収縮中期クリック〉イ ラスト中央部	僧房弁 閉鎖	僧房弁 開放
p.189 ■腎臓の診察 ◆特徴 1行目	肋骨脊柱角 (CVA) を叩打～	肋骨脊柱角 (CVA) を叩打～
p.286 ■来院時〈院外〉心肺停止 ◆特徴 5行目	・頸動脈 (乳児又は上腕動脈) ～	・頸動脈 (乳児では上腕動脈) ～
p.319 ■風疹 1行目	風疹ウイルスの空気感染に～	風疹ウイルスの飛沫感染に～
p.324 ■感染性角膜炎 (角膜潰瘍) ◆ 特徴 1行目	～毛様毛血、前房蓄膿	～毛様充血、前房蓄膿
p.340 ■オウム病 ◆特徴 5行目	～新生児の産性高血圧	～新生児の産道感染症
p.376 ■解離性大動脈瘤 ◆症状 1行目	～ (疼痛は発症時が最大)	～ (疼痛は発症時が最大)
p.393 ■機能的ディスベプシア ◆特徴 1行目	～あるが検査で全く異常なし	～あるが検査で全く異常なし
p.401 ■肝不全 ◆治療 1行目	①利尿薬：スピロロラクトン～	①利尿薬：スピロロラクトン～
p.415 ○肥厚性幽門狭窄症 ◆症状 3行目	～：「オリーブ大腫瘍」	～：「オリーブ大腫瘍」
p.417 ■鉄欠乏性貧血 ◆原因 2行目	呼吸低下：胃切除後、～	吸収低下：胃切除後、～
p.419 ■急性前骨髄球形白血病 ◆検査 2行目	～に含まれる組成因子による	～に含まれる組織因子による

	誤	正
p.431 ■ネフローゼ症候群	■ネフローゼ症候群 ②総蛋白尿 ≤ 6g/dl アルブミン ≤ 3g/dl ←治療はアルブミンの静注	■ネフローゼ症候群 (成人) ②血清総蛋白量 ≤ 6g/dl アルブミン ≤ 3g/dl
p.450 ■片頭痛 ◆治療 発作時 3行目	×トリプトンとの併用	×トリプタンとの併用
p.488 ■Wernicke 脳症 ◆症状	①～、動眼神経麻痺	①～、眼球運動障害
p.506 ■輸液 表 5%ブドウ糖液	カロリー補充 (栄養輸液)	補液、 カロリー補充
p.520 ■Allen テスト	橈骨動脈の血管閉塞の有無を調べるテスト ③尺骨動脈のみ圧迫を開放 ⇒ 15 秒以内に手の色が赤みを得たら側副血行路がある	側副血行を確認するテスト ③尺骨動脈のみ圧迫を開放 ⇒手の色が赤みを得たら尺骨動脈血流は十分にある ④同様に今度は橈骨動脈のみ圧迫を開放
p.537 ■脳死 ○脳死判定 Ⅲ 除外例	①小児 (15 歳未満) ←臓器移植の法律施行記録では 6 歳未満を除外 ②急性薬物中毒 ③低体温 : 直腸温 ≤ 32℃ ④代謝・内分泌障害	①急性薬物中毒 ②代謝・内分泌障害 ③知的障害等の臓器提供に関する有効な意思表示が困難となる障害を有するもの ④被虐待児、または虐待が疑われる 18 歳未満の児童 ⑤年齢不相応の血圧 : 1 歳未満 < 65mmHg、1 ~ 13 歳未満 < (年齢 × 2) + 65mmHg、13 歳以上 < 90mmHg ⑥低体温 (直腸温) : 6 歳未満 < 35℃、6 歳以上 < 32℃ ⑦生後 12 週未満 (在胎週数が 40 週未満であった者にあつては、出産予定日から起算して 12 週未満)
p.556 ■健康日本 21 (第 2 次) ◆対策	①疾病の一次予防 ×二次予防 (検診など) ②改善対象分野～ ③全国的な推進体制の整備～ ④様々な団体との相互協力 : ～	①改善対象分野～ ②全国的な推進体制の整備～ ③様々な団体との相互協力 : ～